三宝通信 №19 1985.11.

『経(キョウ)』

地図の経度(ケイド)が南北のたてを表すように、経(キョウ)という漢字の意味は「たて糸」である。これが、すじみちとかことわりの意味となり、仏陀(ブッダ)の教えを記した書物に「経」という字があてられた。

「経」は仏陀が書き残したものではなく、弟子達の聞いた教えがだんだんまとめられて、次々と新しく作り上げられていった。従って、キリスト経の聖書とちがい、まことに莫大である。

仏教の聖典としては「経」の他に「律(リツ)」・「論(ロン)」があり、三つを合わせて「三蔵(サンゾウ)」という。

法事などで僧侶(ソウリョ)のあげるお経は漢訳の音読みであるから、聞いている人は何が何だかわからないかもしれない。しかし、経の中に人間世界のことで書いてないことはほとんどなく、二千年以上の長きに渡って集積された宗教、文化の宝庫である。やさしい解説書もある。一度手にとってもらいたい。